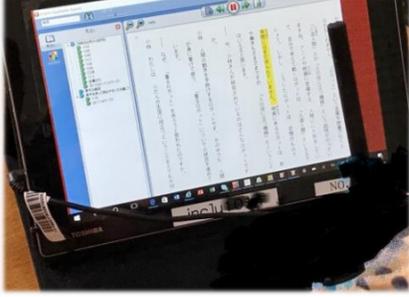


支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(30)年度 読みに困難さをもつ児童の実態に合わせた適切な支援機器等の選定方法及び指導法の検討
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	「海のいのち」
	授業の目標	本文を読んで内容を理解する。 初読後の感想を書く。
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input checked="" type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (6)年 (36)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input checked="" type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input checked="" type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 対象児は全般的な知的機能は標準範囲内だが、発達性読み書き障がい認められ、ひらがなとカタカナの書字、漢字の音読と書字における正確性と、読みの流暢性に関して学習到達度が遅れている。発達性読み書き障がいの背景として、音韻能力および視覚認知力の弱さが考えられるため、音声教材による事前学習をすることで、文章の内容理解がすすむと考えられる。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input checked="" type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input checked="" type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 本人の希望から、通常学級での支援機器の使用はしないが、予習として、放課後にデージーによって作成された教材で音読練習を3回行った。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	 教室用ノートパソコンを使用し、デージーによって作製された教材で「海のいのち」を再生。教室で授業を行う前に3日間使用した。 教室用ノートパソコン Fujitsu LIFEBOOK
授業展開	授業展開・支援の手立て	 9月7日、10日、12日の3回、放課後に別室でデージーによって作製された教材を使用。1日15分が目標。パソコンの画面をしっかりと見つめ、目で追っていた。目を離しても、耳ではしっかりと聞いている様子もみられた。通常学級での授業では、担任の範読を全員教科書を持って黙読する形式であった。初読後の感想としてノートに感想を数行書く
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	・長文であったが、対象児は教科書に集中できていた。ページをめくるタイミングも、よそ見をせず、他の児童とほぼ同じタイミングであったので、どこを読んでいるかわかっているようだった。 ・今回初めて自分で教科書に漢字の読み仮名を書きこんでいた。 ・感想も自分で考えて2行書いていた。